

IV-2-5 沖縄

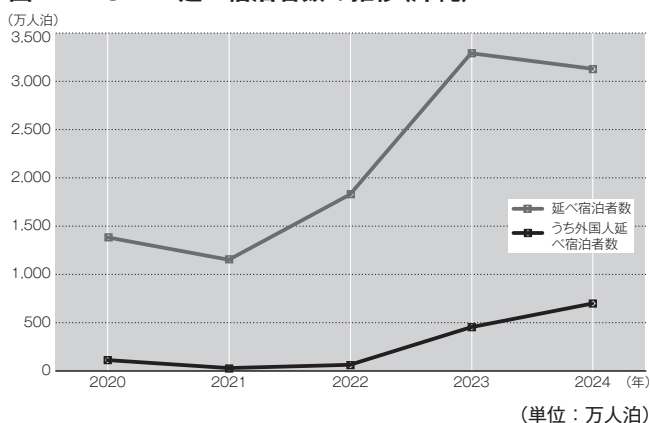
2024年の入域観光客数は966万9,000人、
前年比17.4%増と過去3番目の実績
外国人の占める割合はコロナ禍前の20%台まで回復

(1) 都道府県レベルの旅行者動向

観光庁「宿泊旅行統計調査」によると2024年1月から12月の沖縄県の延べ宿泊者数は3,127万人泊となり、前年比4.9%減(161万人泊減)とわずかに減少となった(図IV-2-5-1)。

一方、外国人延べ宿泊者数は693万人泊となり、前年比59.9%増と順調に増加している(図IV-2-5-1)。

図IV-2-5-1 延べ宿泊者数の推移(沖縄)



資料: 観光庁「宿泊旅行統計調査」をもとに(公財)日本交通公社作成

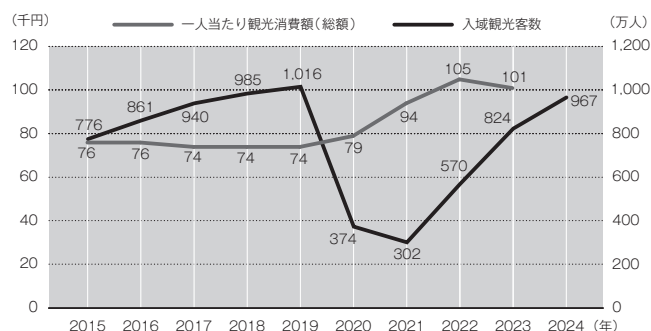
沖縄県が推計している2023年の観光客一人当たり観光消費単価(総額)は約10万1,000円、前年から微減した。これは、国内客の消費単価が下落した一方で、外国人観光客の増加がその減少幅を緩和している構図となっている。コロナ禍前(2019年)と比較すると約1.4倍と高い水準を維持しており、全体としての観光収入は8,316億円となり前年比39.7%の増加となった(図IV-2-5-2左軸)。

2024年の入域観光客数は966万9,000人で、前年比で143万3,400人増(17.4%増)と過去3番目の実績となった。また、これまで最多を記録した2019年に対し95.1%の水準まで回復した(図IV-2-5-2右軸)。2024年の入域観光客数のうち、国内客数は753万6,000人、外国人客数は213万2,000人だった。外国人の占める割合は22%と、前年の116.2%増となったが、2019年の過去最高記録にはわずかに及ばなかった。国内客が過去最多を更新した一方で、外国人客数は、航空路線の復便やクルーズ寄港回数の増加等に伴い、段階的に回復しているが、中国本土便等、一部航空路線やクルーズ船の運休の影響により72.8%の水準となっている(図IV-2-5-3)。

離島の動向を見ると、沖縄県八重山事務所が公表する2024年の八重山地域の入域観光客数は142万6,000人で、前年比19.2%増(229,421人増)となった。一方、宮古島市が公表している宮古島の観光客数は113万6,000人(前年比28.7%増)となった。2019年比で見ると宮古島は0.2%減とほぼ同水準まで回復した。八重山地域は3.7%減と、回復状況に地域差が見られるが、両地域ともクルーズ船の再開が追い風となり、観光客数のV字回復を牽引した(図IV-2-5-4)。

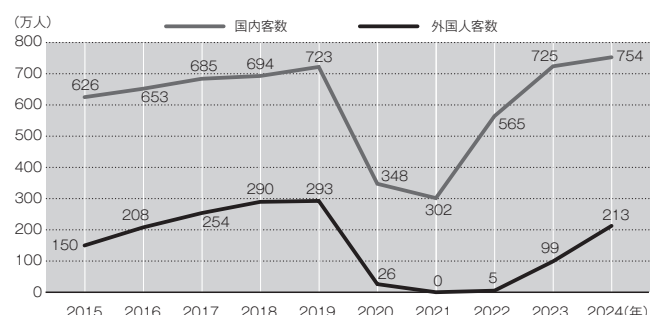
沖縄県全体の入域観光客数の推移と比較すると、2019年度実績から県全体が95.1%と回復する中、両地域とも県全体を上回るペースで回復しており、離島における観光需要の力強い回復がうかがえる。

図IV-2-5-2 入域観光客数と一人当たり観光消費額の推移



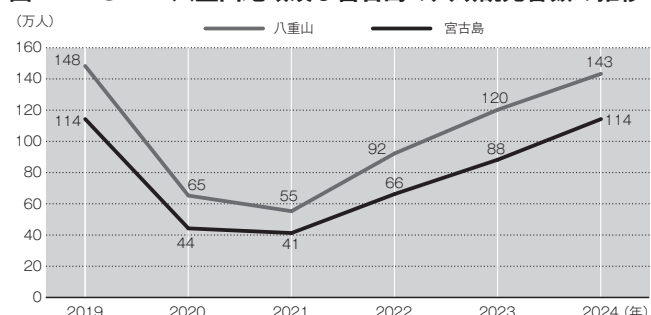
資料: 沖縄県「観光統計実態調査」及び「沖縄県入域観光客統計概況」をもとに(公財)日本交通公社作成

図IV-2-5-3 国内客数(県外)と外国人客数の推移



資料: 沖縄県「入域観光客統計概況」をもとに(公財)日本交通公社作成

図IV-2-5-4 八重山地域及び宮古島の入域観光客数の推移



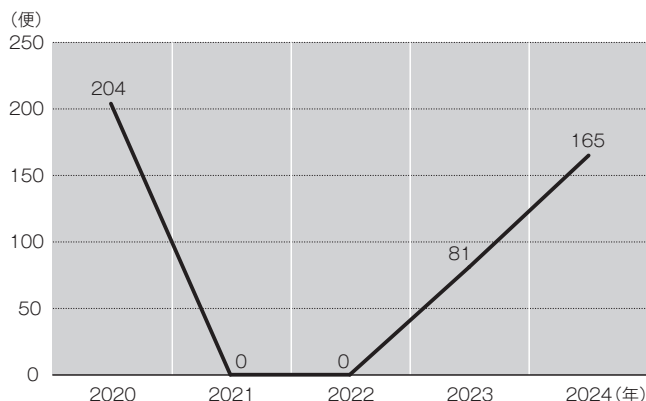
資料: 沖縄県「八重山入域観光客数統計概況」及び宮古島市「宮古島市の入域観光客数推計値」をもとに(公財)日本交通公社作成

(2) 観光地の主な動向

●国際線の状況

2019年以降の週当たり便数の推移を、図Ⅳ-2-5-5に示す。2024年は、2022年から始まった運航再開の流れが本格化し、コロナ禍からの回復が顕著に進んだ一年だった。那覇空港における国際線の回復率は2019年比で64.1%に達し、特に台湾や韓国からの路線が堅調な需要を見せた。また、釜山線やバンコク線等の再開・新規就航も相次ぎ、国際的なアクセスが大きく改善された。

図Ⅳ-2-5-5 那覇空港、石垣空港(南ぬ島石垣空港)における国際線(直行便)の週当たり便数の推移



(注) 各年、1月末日現在の便数。

資料：沖縄県「観光要覧」をもとに(公財)日本交通公社作成

●宿泊施設の開業

2024年から2025年中期にかけてオープンした主な宿泊施設(名称変更等によるリブランドを含む)を表Ⅳ-2-5-1に示す。

この期間を通じて沖縄本島、離島それぞれで複数の宿泊施設が開業し、2023年に引き続き、各地域における施設数及び収容人数の継続的な増加が見られた。

2024年は、宮古島や石垣島といった離島、及び読谷村等の沖縄本島のリゾートエリアでの開業が中心となった。これは、コロナ禍からの観光需要回復を見据え、特に高付加価値なリゾート滞在へのニーズに応えるための投資が活発であったことを示している。大規模なリブランド案件も見られ、観光産業の質的な向上を目指す動きが顕著だった。

2025年は、那覇市での開業が目立つ点が大きな特徴。2025年前半までに開業した宿泊施設を掲載しているため同表に掲載されていないが、10月に開業予定の「ファーストキャビン那覇空港」に注目したい。これは沖縄で初となる空港内ホテルであり、早朝・深夜便の利用客や乗り継ぎ客の利便性を大きく向上させるものと期待される。また、ANAクラウンプラザやローズウッドといった国際的なブランドホテルの開業も続き、沖縄観光が都市型・高級志向へと多様化していることがうかがえる。一方、老舗ホテルでは、2024年に「ホテル日航アリビラ」が30周年、2025年に「沖縄ハーバービューホテル」が50周年を迎えた。

表Ⅳ-2-5-1 2024年から2025年前半にかけて開業した主な宿泊施設

年月	宿泊施設名	所在地	室数
2024年	2月 ホテル シギラミラージュ ビーチフロント	宮古島市	93室
	3月 VIVOVIVA 石垣島	石垣市	98室
	4月 STORYLINE 瀬長島	豊見城市	101室
	4月 グランドメルキュール沖縄残波岬リゾート(旧Royal Hotel 残波岬)	読谷村	465室
	7月 TWIN-LINE HOTEL YANBARU OKINAWA JAPAN アネックス棟	名護市	50室
	9月 seven x seven 石垣	石垣市	121室
2025年	1月 LACER OKINAWA NAHA MIEBASHI(旧Rakuten STAY那覇美栄橋)	那覇市	27室
	1月 LACER OKINAWA NAHA TOMARIPOINT(旧Rakuten STAY那覇泊ふ頭)	那覇市	25室
	3月 BATON SUITE 沖縄古宇利島	今帰仁村	35室
	3月 ANA クラウンプラザリゾート沖縄うるまヒルズ(旧アンサ沖縄リゾート)	うるま市	123室
	3月 ローズウッド宮古島	宮古島市	55棟
	4月 スマイルホテル宮古島(旧セントラルリゾート宮古島)	宮古島市	135室
	5月 ラ・ジェント・ホテル沖縄那覇	那覇市	257室

資料：新聞記事、ウェブサイト等の公開情報をもとに(公財)日本交通公社作成

●観光関連施設の開業

2024年から2025年前半にかけてオープンした、沖縄県内の主な観光関連施設(商業施設、アミューズメント施設等)を表Ⅳ-2-5-2に示す。

2024年8月に南城市に「コストコ」がオープン。沖縄初出店となった。2025年前半までに開業した施設を掲載しているため、同表には掲載されていないが、2025年7月には、沖縄本島北部の名護市と今帰仁村にまたがる大型テーマパーク「JUNGLIA OKINAWA(ジャングリア沖縄)」が開業した。神秘と生命力に満ちた世界自然遺産「やんばる」を擁する沖縄北部の圧倒的な大自然を舞台に、都会にはない興奮と贅沢の体験を通して沖縄の旅を変えるテーマパークで、コンセプトは「Power Vacancel! (パワーバカンス)」。亜熱帯地域に位置する沖縄ならではの生命力に満ちた、見たこともない植物が生い茂る「やんばる」の大絶景を舞台に、その地にしかない体験を通して生まれる「興奮」と本物の自然に没入する「贅沢」が重なると、今まで経験したことのない「解放感」が人間の本能を貫き、人生最高に心が高ぶる「Power Vacancel!」を体験できるとしている。沖縄本島北部における新たなランドマークとして大きな期待が寄せられている。

●沖縄県内レンタカー事業者、初の2,000社超え(図Ⅳ-2-5-6)

2024年度は、回復した観光需要を取り込もうと個人の事業者が増加。過去最高だった2023年度の1,885社を更新し、2,186社となった。車両数も過去最多の5万6,658台となった。

●那覇空港の乗降客数が過去最高に(図Ⅳ-2-5-7)

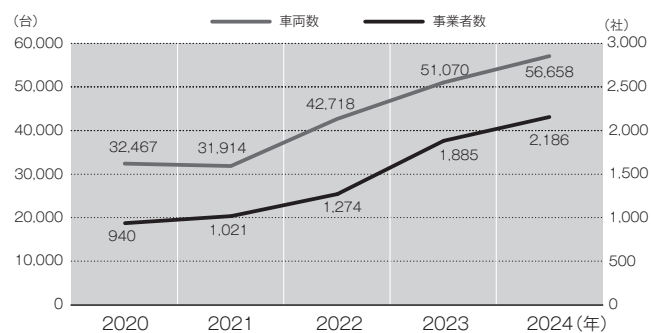
2024年度、那覇空港の乗降客数が過去最高を更新し、2,170万人となった。

表IV-2-5-2 2024年から2025年前半にかけて開業した主な観光関連施設

年月	施設名	所在地	概要
2024年	3月 ちきゅうのにわ イオンモール沖縄ライカム店	北中城村	遊びながら地球の面白さや自然の大切さを学べる0歳から12歳までの子どもを対象とした大型屋内プレイグラウンド。「火山」、「海と風」、「森」等、屋内にありながら自然とふれあうように遊ぶことができる。
	4月 Little Universe OKINAWA (IBSMALL WORLDS OKINAWA)	豊見城市	大型商業施設「イース沖縄豊崎」内にオープンした、デジタル空間演出×ミニチュア×AR等の最新テクノロジーが融合した新感覚ハイブリッドエンターテインメント施設。総面積3,300㎡・テニスコート13面分の広さに、18世紀の琉球王朝や1980年代の東京等、複数のミニチュアを展示。
	4月 みやこ下地島空港 ビジネスジェットターミナル	宮古島市	プライベートジェットやビジネスジェットで下地島空港を利用する人とその乗務員をターゲットとし、天井の内装に温もりのある木材を使ったラウンジ、仮眠室やシャワー室等もあり、非日常である島の温かさを感じられる空間となっている。
	5月 なごアグリパーク (リニューアル)	名護市	コンセプトは食の育みと、ものづくりへのこだわりを意味する“FARM&CRAFT(ファーム&クラフト)”であり、沖縄の豊かな自然の恵みを感じることができるグルメや土産、体験がふれ出す、食のテーマパークとしてリニューアル。
	8月 コストコ 沖縄南城倉庫店	南城市	広大な敷地に、食料品、日用品、電化製品、衣料品等、コストコならではの大容量で高品質な商品が豊富にそろえられ、沖縄の地域性を考慮した商品も取り扱われている。敷地内にはガソリンスタンドも併設されており、会員は安価に給油することができる。
2025年	3月 GiGO 沖縄アウトレットモールあしびなー	豊見城市	那覇空港から車で15分、日本最南端のアウトレットモール「沖縄アウトレットモールあしびなー」2階に、沖縄県では2店舗目の「GiGO」がオープン。絶好のロケーションを背景に、約100の人気ブランドがそろったアウトレットモールは、地域住民だけでなく観光客の利用も多い人気の商業施設で、インバウンド需要も高くなっている。

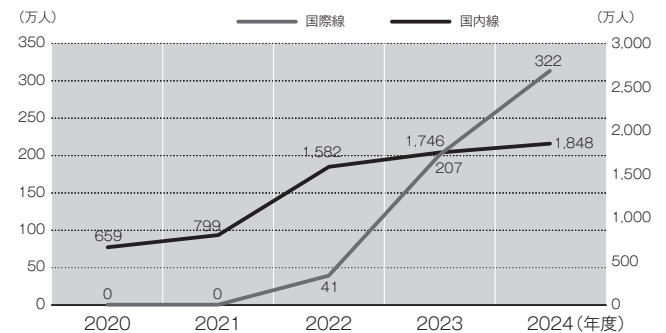
資料：新聞記事、ウェブサイト等の公開情報をもとに(公財)日本交通公社作成

図IV-2-5-6 沖縄県内のレンタカー台数及び事業者数



資料：内閣府 沖縄総合事務局資料をもとに(公財)日本交通公社作成

図IV-2-5-7 那覇空港の乗降客数



資料：国土交通省「空港管理状況調査」をもとに(公財)日本交通公社作成

(3) その他の動向

●観光目的税の導入に向けた動き

導入を目指す観光目的税(宿泊税)をめぐる、沖縄県は、用途が限定されない法定外普通税ではなく、現行案の法定外目的税とする条例案を県議会2025年9月定例会で提案する方針を固めた。県内の市町村が求めている2026年度中の導入が実現できる可能性が高まった。竹富町では、竹富町訪問税条例が2025年6月13日の町議会で可決・公布されたことを発表している。税額は、訪問者一人につき1回1,000円、年間で5,000円とされている。

●泡盛を含む「伝統的酒造り」がユネスコ無形文化遺産に登録

2014年12月5日、「伝統的酒造り」がユネスコ無形文化遺産に登録された。日本からの登録は本件で23件目となる。

●自然災害への備え

沖縄県と一般財団法人沖縄観光コンベンションビューロー(OCVB)は2024年11月、豊見城市の沖縄空手会館で、地震・津波災害を想定した図上訓練を行った。同年4月に台湾東部沖地震に伴って県内で津波警報が出されたことを受けて関心が高まり、過去最多の200人が参加した。

●水難事故、過去10年で最多

2023年に発生した水難事故は116件、死者・行方不明者は60人と過去10年で最多となった。また、マリレジャー提供業者の届け出業者数は2019年の2,071業者から、2023年6月末時点で3,723業者に増加した。

(山口佳枝)